

PASSAGE
by ALL REVIEWS

ブックシヨップを巡る旅に出かけよう

BOOKSHOP TOURISM

いま、なぜ「本屋」なのか？

本屋がかわって来た。カフェを併設していたり、作家やクリエイターによるイベントや展示が行われたり、空間自体がギャラリーのようにデザインされているところもある。この潮流は、古くからある老舗と相まって本屋を巡るという、良質な旅のカタチを生み出している。新しい愉しみを求めて、新しい「本屋巡り」をはじめよう。

本屋を目当てで旅行する ブックショップトラベルとは？

案内・和氣正幸



くようになったのも大きいと思います」
 こうして、独立独歩な本屋が全国に広がったとなると、どこから巡ればいだろう。和氣さんが旅先に薦めてくれたのは盛岡、大阪、尾道、福岡の4都市だ。

**それぞれの町の、
起点となる本屋**

盛岡には、いい喫茶店がたくさんあって、喫茶文化を楽しめることはよく知られている。

「喫茶店『クラムボン』*3と同じ紺屋町にあるのが『BOOKNERD』です。店主は元々、『クラムボン』が好きで、互いに行き来できたから、この地に店を開いたのだそうです。米国で買い付けたアートブックや国内外の文学書が新刊・古書問わず並んでいます。盛岡駅そばの『Pono books & time』はワークスペースがあって、コーヒーを飲みながら本に囲まれるひとときを過ごせます。

プロレスとハワイが好きな店主の優しさがあふれているお店です」
 大阪は大都市だけあり、本屋も数多い。
 「二見オーソドックスでも、町の本屋としてすごくいいお店が揃っているのが大阪です。谷町線は文の里商店街にある『みつばち古書部』はシエア型本棚のスタイルを初めて取り入れた古書店で、四角い箱棚が一面に並んでいます。つくったのは同じ商店街の近くにある『居留守文庫』。こちらは本の森というかカオスというか、本の密度がすごくて圧巻です。北浜の『FOLK old book store』は1階がカラー屋、地下階が本屋、隣が絵本屋。気さくな店長がきりもりしていて、ジャンルレスでフリーマーケットのようなワクワク感があります。千鳥橋に転居された『シカク』は出版もされていて、肩肘張らない独自の世界観を展開されています。大阪は歩踏み出せば、楽しくて面白いお店ばかりです」

盛岡 MORIOKA

BOOKNERD
 岩手県盛岡市紺屋町6-27
 @BooknerdMorioka
 booknerdmorioka

Pono books & time

岩手県盛岡市大通3-7-9
 東北堂ビル2F
 @pono_books
 pono_books

大阪 OSAKA

みつばち古書部

大阪府大阪市阿倍野区昭和町1-6-3

居留守文庫

大阪府大阪市阿倍野区文の里3-4-29
 @irusubunko
 irusubunko

FOLK old book store

大阪府大阪市中央区平野町1-2-1 1F/BF
 @FOLKbookstore
 folkoldbookstore

シカク

大阪府大阪市此花区梅香1-6-13
 @n_SHIKAKU
 konohanashikaku

盛岡駅から徒歩数分の「Pono books & time」。本棚の向こうに靴を脱いで上がるソファコーナーがあり、本や雑誌、漫画を読んでもらえる。窓辺にはワークスペースも用意されている。WiFi完備。



大阪・文の里の商店街にある「みつばち古書部」は棚ごとに主が違うシエア型古書店。お店番号持ち回りで日により交替する。棚の位置も定期的に変わるので、行くたびに発見がありそう。店先にはワゴンコーナーも。



※盛岡、大阪、尾道、福岡の本屋の写真は和氣さんによる提供

**目当ての本は、
なくたっていい**

「皆さん、旅先で、絶景スポットや観光名所、郷土料理レストランなんかを巡りますよね。そこに本屋を加えてみることからブックショップトラベルは始まります。いくつか訪ねるうちに、本屋には個性があり、それを発見するのが楽しくなって、ついには本屋を目当てで旅行する和氣正幸さんに聞いた。



Profile わき・まさゆき

BOOKSHOP LOVERの屋号で活動する本屋ライター。著書に「日本の小さな本屋さん」、共著に「全国 旅しても行きたい街の本屋さん」ほか。アンテナショップ「BOOKSHOP TRAVELLER」の店主でもある。
<https://bookshop-lover.com/>

- ※1 東京・中目黒の目黒川沿いにある古書店。著述家・松浦弥太郎氏がブックセレクションを行う。書籍、雑誌のほかオリジナルグッズも販売
- ※2 「本屋ですがベストセラーは置いてません」を掲げ、2006年にオープンしたカフェ併設本屋。現在は大阪・天王寺に移転
- ※3 盛岡市紺屋町にある自家焙煎コーヒーの美味しい喫茶店

本屋が、必要な本を買い求めるのみならず、本に出会い、店主と出会い、イベントや展示を愉しみ、心がフレッシュする場へとかわってきた。全国各地に誕生する個性豊かな本屋を巡るブックショップトラベルがいま、注目を集めている。ブックショップトラベラーとして活躍する和氣正幸さんに聞いた。

「2002年に『カウブックス』*1がオープンして、古本屋の概念が覆りました。その後、大阪・心斎橋に『スタンダードブックストア』*2という、カフェを併設し、イベントを開いて人々が交流する米国の書店スタイルに影響を受けた店が誕生します。2010年代後半には『本屋、はじめました』（辻山良雄著）、「これからの本屋読本（内沼晋太郎著）」が出版され、個人で本屋をやってみたくてもハウツーが分からなかった人たちに情報が届

旅先でピンと来た本屋さん

Special Interview 語る人・浅井直子

神保町の共同書店PASSAGEで食をテーマとした『FOOD COMMONS』という棚を持っている浅井直子さんは、ブックシヨップトラベルの実践者でもある旅先で書店を訪れる楽しさについて話していただいた。

「旅に出ると自分のアンテナの周波数が少し変わります。そんなときに本屋さんに入るとピンと来るものがある。日常ではなく、旅先だからこそ出せる本を手に入れることができるのです。街歩きの中で品のいい店構えが気になって入ったら当たり！」

リサーチを兼ねて訪れた京都で、そんなふうに見つけたのがレティシア書房だそう。

「こぢんまりした店内ですが、ビビッとくる本に出合える確率が高いお店。ここで黄色い表紙の『茶の本』（土曜社版）に出合えたことで茶や酒、コーヒーなど嗜好品

歌、詩、俳句と海外文学に特化した『本のあるところ ajiro』は歌人をはじめ、本好きな方が集う店です。カフェもあって、天神の気軽に行ける場所なので、旅先で詩歌本を手にする素敵を体験してください」

巡り合えたなら、本を買って帰ろう

ブックシヨップトラベルに出かけたい気持ちが高まる一方、訪問する際の注意点も教わりたいたいところ。

「いちばん気をつけたいのは、営業しているかどうかです。独立書店は不定休や急な臨時休業があったりします。HPやSNSを通じて予定を案内していることが多いので、事前の確認をおすすめします。あとは、本棚を眺めるのについて夢中になって、うっかり荷物の本の上に置いてしまわないように」

何よりも、出合った本は、そのとき、その本屋で手に入れるのがブックシヨップトラベルの醍醐味。読み終える頃、次はこの本屋へ行こうか、どの道を行こうかと考えるようになったら、あなたはもう、真のブックシヨップトラベラーです。

に対する考え方が深まりました」

京都には食文化まわりの貴重な書籍と出合える書店が多く、本好きには知られた名店、誠光社や独自の品ぞろえに惹かれるホホホ座など、京都に出かけたときに立ち寄りたいお店は他にも数店あるという。浅井さんはいつか書店に行くことを目的に旅をしてみたいという。

「タイトルにノックアウトされて手に取った文庫『わたしを空腹にしないほうがいい』の版元が岩手にあるBOOKNERD（PSを参照）という本屋さんでした。サイトを拜見すると品揃えも私好みで、いつか行ってみたいお店です」

他にも鳥取や熊本を訪ねたい書店があるそう。旅先で入手した本は、後日手にとると、その本と共に過ごした旅の記憶がよみがえってくるという。それも旅先で書店を訪れることで得られるお土産と言えそう。

「棚に本を並べているときにいらっしやっただお客様に、その本がどんなふうに見えるかをお話したら買ってくださったのです。本ってこのように有機的に売ると、売り手としても楽しいものになるのではないしょうか」(浅井)



個人や団体が制作した小数量発行の出版物“リトルプレス”を中心に、新刊本、古本、CD、レコードも販売するレティシア書房。店内にはギャラリーも併設している。店長の小西徹さんが目指しているのは「町の面白い本屋」。お客様の半歩～一歩先に行くことを意識した本をセレクトしている。

Profile あさい・なおこ

食と酒の編集者。『料理王国』前副編集長。雑誌やwebサイトに食や酒のコンテンツを提供しつつ、共著を2冊(日本酒と食関係)執筆中。さらに、ジャンルを越えて文脈で捉える食メディア『FOOD COMMONS』を仕込んでいる。



FOOD COMMONS(食べ物を通して社会を捉えなおす、食専門レーベル)昨年1月、棚主募集ツイートをみかけて「PASSAGE」の棚主となった浅井さん。食の編集者としてさまざまな文献に接してきた経験から、最近の最新書籍の回転が速く、読んで欲しい本や価値ある本が以前より手に入りづらくなっていることが気になっているという。取材時に浅井さんの棚に並んでいたマイケル・ポーランの『人間は料理をする(上)』(NTT出版)も良書であるが故に人気も高く、絶版となった今ではなかなか入手できない一冊。

京都 KYOTO

レティシア書房 京都市中京区高倉通二条下ル瓦町551

誠光社 京都市上京区中町通丸太町上ル後屋町437

ホホホ座浄土寺店 京都市左京区浄土寺馬場町71 ハイネストビル1F

尾道のゲストハウスあなごのねこの脇にある路地を通り抜けると現れる「紙片」。まさに幻想の世界の中の小部屋といった佇まいだが、ここで出合った本とCDと訪れた記憶は現実世界へ持って帰ることができる。



福岡の出版社「書肆侃侃房」が2018年に開いた「本のあるところajiرو」。自社商品のほか、作家が自費制作した詩歌本も並び、読書会、詩の会、トークイベント、韓国語講座などイベントも多数、開催されている。



和氣さんのアンテナショップ[BOOKSHOP TRAVELLER]は2023年3月、都内に移転予定。

尾道 ONOMICHI

紙片
広島県尾道市土堂2-4-9
あなごのねこの庭の奥
@shihen_onomichi
shihen_onomichi

式拾dB
広島県尾道市久保2-3-3
@1924DADA
mototufufuji

福岡 FUKUOKA

ブックスキューブリック箱崎店
福岡県福岡市東区箱崎1-5-14
ベルニード箱崎1F
@BOOKSKUBRICK
bookskubrick

本屋青旗
福岡県福岡市中央区薬院3-7-15 2F
@aohatabooks
aohatabooks

本のあるところajiرو
福岡県福岡市中央区天神3-6-8
@ajirobooks
ajirobooks

書店に行けば、心躍らされる世界が待っている

2022年5月、共同書店の棚主という形でリアル「金子浩久書店」がスタートした。自著を売る行為から発見した、いま、書店へ行く楽しさとは？

書店の棚主となって

自分が書いた本をすべて展示しながら、気に入ってもらった人には買ってもらえたらいい。そんなシヨールーム兼本屋の代わりとなるようなシェア型リアル書店をずっと探していました。

池上、下北沢、吉祥寺などの既存店を見に行きましたが、最終的に神保町のPASSAGEと契約して入会金1万3000円を支

だけでした。なぜか、その翌週に「10年10万キロストーリー」が1から4まで1冊ずつ、「ニッポン・ミニ・ストーリー」が2冊、「地球自動車旅行」が1冊続けて売れましたからわからないものです。

読み手とつながる喜び

一番うれしいのは、買ってくれた人がそのことをSNSで発信してくれたら、ダイレクトメッセージで僕に感想などを送ってくれることです。店頭での購入は、アナログのリアル体験となるわけですが、その後にデジタルの力で簡単にコミュニケーションを取ることができると。また、棚の本はサイトから通信販売も可能。店頭での販売はキャッシュレスだけで、売れた場合は1冊ずつメールで即時に報告されるのもデジタルを活用しています。アナログとデジタル両方の効能が発揮されているわけです。

1冊でも売り上げメールが届くたびにうれしくなって、すぐに神保町へ出かけて棚に補充しています。その時に、他の棚を眺めるのも

払い、毎月6600円(2022年契約当時)で棚を借りています。売り上げ額の10%を上納すること以外に束縛はなく、公序良俗に反しなければどんな本でも並べて売っても構わない。値付けも自由。

自分の本を1冊ずつ並べて合計11冊。残りは、同業者の著書や写真集、自費出版本などを並べてあります。フランス文学者の鹿島茂氏が1990年に上梓した「馬車を買いたい！」は古書市場で高値で取引されていることもあって、すぐに売れました。馬車を軸にして、19世紀のバリの風俗をフランス文学がいかに描いたかを明らかにし、サントリー学芸賞も獲得した氏の出世作。30年前の僕の購入目的は、当時の馬車の使われ方と

楽しみとなりました。作家や評論家、詩人や歌人などクリエーター自らの棚もあれば、出版社や編集プロダクションなどの棚もあります。特定の作家やジャンルのファンの人が設けている、推し棚もあります。手に取って見たら面白かった「ジョン・ウォータースの地獄のアメリカ横断ヒッチハイク」や、中学生の頃に読み逃していた「サハラに死す。上温湯隆の一生」が文庫で復刊されたのも棚で知って購入しました。どちらも棚主の何らかの想いがあって並べられたものです。僕が並べてもおかしくない2冊です。

書棚に想いをこめる

アンダーラインが引かれたままになっている本もここでは珍しくありません。今までの古本の常識ではアンダーラインや書き込みはネガティブなものでしたが、ここではそれは、棚主の何らかの想いの証と受け取られています。それが何なのかを想像することがとても面白い。それを押し上げてみれば、本来、書店として店を構え

馬車の形式を知ることでした。現在のクルマのボディ形式の多くは馬車に由来しているものですが、その後、バリでは急速に馬車から自動車へ乗り換えられていきます。引き継がれたものもあれば、消滅したものもありました。21世紀の現代に再び馬車について知り、考えることは電動化と自動化が進む今後のクルマの行く末に必ず接続されるのだと確信しています。

売れ行きには波があつて、良く売れる月もあれば、そうでない月もあります。モータースポーツジャーナリストの赤井邦彦さんの棚では神保町ブックフェスの期間中たくさん売れたそうですが、僕の棚からは「ユーラシア横断1万5000キロ」が1冊売れた

て本を並べるといふ行為には必ず何らかの想いが込められているはず。僕も、クルマがもたらす奥深い世界を知ってもらいたいという想いから棚を借りています。

いま、全国で個性的な書店があちこちで生まれてきています。店主ならではの想いが本の選び方に反映されているはず。知らなかつた本に出会い、忘れていた本に再会できるかもしれません。インターネット出現までは、自覚して引寄せられていました。今では、清澄白河のドレッドノート^{※1}や南青山のロンバルディ^{※2}など個性的な棚を並べている書店ほど輝いています。書店に行けば、予期していなかつた邂逅と心躍らされる世界があなたを待っています。旅先で絶景やグルメを訪れるのと一緒に、ぜひ、書店にも寄ってみてください。クルマだから、多めに買ったとしても運んで帰れるので心配ありませんよ。

※1 イギリス海軍の戦艦(Readought)に由来する店名のブックカフェ。オーナー選りすぐりの歴史、軍事、SF関連の書籍を取り揃う。
※2 クルマやバイクにまつわる貴重な書籍や雑誌、カログなどが世界中から集められている。クルマ好きのための古本屋。

自身の棚の補充はもちろん、他の棚を回って、本を購入する楽しみもあるという。



PASSAGEにある金子氏の棚。いわゆるカーマニアではない人ほど楽しめる本を並べ、クルマが社会やカルチャーを反映する多面的なものであると示している。

PASSAGE by ALL REVIEWS
東京都千代田区神田神保町1-15-3
サンサイド神保町ビル1F
@PASSAGEbyAR
passagebyallreviews

Profile かねこひろひさ

モータリングライター。1987年、F1メキシコ・グランプリを皮切りに、世界のレースを取材。専門のクルマだけでなく、ファッションからカルチャーまで幅広く精通する。主な著書に「10年10万キロストーリー」「地球自動車旅行」。
<https://www.kaneko-hirohisa.com/>

